



## セミの成虫は、なぜあんなに早く死ぬの

### セミが生きているのは2～3週間

セミは、羽化したばかりのものをみつけてきて、大切に飼ったとしても、せいぜい、生きているのは、2～3週間ぐらいです。この短いじゅ命の間に、大急ぎで、オスはメスを見つけて、卵を産んでもらうため、いっしょうけんめい鳴いているといえます。

でも、本当のセミのじゅ命は、けっこう長いのです。こん虫は、一生をながめると、おとな（成虫）の時期がとても短く、幼虫時代が長いものが多いといえます。こん虫のおとなの時期は、子孫を残す、つまり、結婚相手を見つけて、卵を産むことだけが役目で、ガの仲間のように、成虫になると何も食べず、口をもっていないものもいるくらいです。

### セミは、けっこう長生き

セミの一生は、まだ、はっきりわかっていないことが多く、幼虫の期間もはっきりしていません。食べ物が多いとか、環境のちがいなどで、幼虫時代の長さが、少しちがって行くこともあります。

アブラゼミは、卵の時期が300日、幼虫時代が5年間で、じゅ命はほぼ6年です。ミンミンゼミやクマゼミも、アブラゼミと同じぐらいと考えられています。

ニイニイゼミは、卵の時期が40日、幼虫時代は、およそ、4年といわれています。

北アメリカにいるジュウシチネンゼミは、幼虫時代が、13年、または17年ということ  
で有名で、こん虫の仲間では、とても、長生きといえます。（監修・中山 周平）

